

令和6年3月12日(火)

校長室より(167)



こんにちは。

「あの日」の続きを書きます。

学校にいた吹奏楽部員は、保護者のお迎えを待って自宅に帰ることになりました。でも、電車が全てストップしていたので、通勤に電車を使っている保護者は、勤務先から歩いてお迎えに来てくれました。最後のお迎えは、夜の8時ころだったと思います。

時間の経過とともに、地震の規模と被害の様子がわかってきました。激しい揺れは、東北地方から関東地方の広範囲に渡っていたこと、死者が出ていること、交通機関が完全に麻痺して道路に大渋滞が起きていること、携帯電話がほぼ繋がらないこと、東北地方で大津波が発生して甚大な被害が出ているらしいこと、などが断片的にわかってきました。

学校は災害が起きたときの「避難所」になっています。学校に残れる(泊まれる)男の先生たちが2棟にある「防災備蓄倉庫」から、毛布や非常食、水などを出してきて体育館に運びました。体育館には、近所の方や帰宅途中の方50人くらいがいて、余震が続く中、朝まで過ごしました。先生たちは交代で避難所の仕事をしたり、職員室で休んだりしました。



夜が明けて、電車も動き出したので、みんな自宅に帰っていきました。お腹が空いたので、コンビニエンスストアに買い出しに行ったのですが、食べ物はありませんでした。奇跡的に咲が丘にある牛丼屋さんが営業していたので牛丼を買ってきて、先生たちみんな食べてから帰宅しました。